

第3回東名遺跡整備指導委員会 主な意見と対応方針

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
コンセプト	1	資料1のコンセプト副題に、温暖化のおかげで残ったという温暖化がプラスのように聞こえる。コンセプトには逆説的な文章になっている。	—	キャッチフレーズになるようなコンセプトについて、ワークショップやワーキンググループ等で出された意見を整理し、専門家に依頼することも含め検討していきたい。
	2	コンセプトについては、幾つか候補を示してもらって、色々な意見を取っていただきたい。「縄文を楽しむ」や「縄文を感じる」など、興味ない人たちでも楽しめるようなワードを入れていった方が良い。	例えばカフェショップをつくったり、具体的な整備の目標にするような言葉は改めて考えた方が良いと思っている。	
	3	「市民が地元に対する誇りや愛着心などが強くなるような施設、場所になることを目指す」ということもコンセプトに少し盛り込んだり、色づけしたりすると良い。	資料3の施設整備の目的の項で、市民の宝にしていくとか、当然愛着を持っていただいて、誇りに思ってもらおうということに触れている。	
	4	「東名や縄文を通じてSDGsを学ぶ」ではなくて、「SDGsを学ぶためにここがある」という発想にした方が、最初に来訪するきっかけづくりにもなるのではないか。	—	
	5	遺跡からアプローチする矢印と、対極的にSDGsが定義しているテーマがあって、現代的な防災の課題もあるから、そちらの方からアプローチしてくるベクトルもある。その両方がうまくバランスよく盛り込まれていて、我々のテーマ設定の中に生きていくという形にすれば良いのではないか。	—	
諸室配置	6	本館外収蔵庫への動線は、雨天の場合をしっかりと考えて、屋根つき廊下にするとか、軒を長くして物や人が濡れないような工夫をしてほしい。	—	本館から本館外収蔵庫への動線について、渡り廊下を計画。 【資料1-1】参照。
	7	資料調査に来た人がどこで資料を見るのか、収蔵遺物を他施設の企画展などへ貸し出す時に、どこでその遺物を広げるのか、遺物の写真撮影はどこでするのか。	—	調査研究エリアの多目的作業スペースを重ね使いすることで対応する予定。スペースが不足する場合は、普及活動エリアの多目的室を間仕切ることに対応する。

項目	主な意見		事務局の回答等	
				対応等
諸室配置	8	トイレはやはり重要だと思う。ピーク時にどのぐらいの来館者を想定しているのか。様々なターゲットに対してどのように対応していくのか。	トイレの個数については、空調学会の適正器具算定品の算定法に、集会場の用途で平米当たりの人数の基準があり、現状はピーク時に約300人集まる想定をしている。今後、詳細検討を進めながら、そのレベルが適切かどうか検討したい。	—
	9	館長室は狭くても構わないので、来客があった時に少し休んでいただけるようなスペースは必要。	—	具体的な場面を想定しながら、重ね使いの工夫や必要性も含め検討したい。
収蔵保管	10	蓄積された分析資料について、今まで関わられた数十名の学者の方たちの手元にまだあると思うが、そういう分析資料も人が見に来る、参考にする、研究の材料にする、展示する、それから学術的な価値づけをする資料として大切にこの施設で保管をしていただきたい。	—	分析いただいた研究者に連絡し、できる限り集約保管する方向で検討したい。
カフェ	11	「カフェやショップは、縄文を楽しむためのコンテンツとして使いましょう」というのはもっと明確に打ち出した方が良くと思う。	—	コンセプトの整理と合わせ、カフェの内容についても、今後具体的に検討していきたい。
施設屋外	12	体験交流など屋外空間に展開できるものは、できるだけ屋外をうまく使えるような設えにした方が良い。体験交流広場などの屋外空間において、イベントを行うのであれば、水や電気などのインフラ整備も外部利用のために必要。	広場空間の外コンセントやフック、タープを簡単に引き出せるような設え等については、今後実施設計の中で具体的に検討していきたい。	—
屋内展示	13	遺跡や文化財などをどんな人がどういう思いで守っているのか、さらに「考古学とは？」ということにも触れる機会、場所であっても良いのではないか。	—	考古学の基礎知識が学べる場として「考古ラボ」の設置を計画している。 【資料1-2・3-1】参照。
	14	東名遺跡は、海水準が上がって遺跡が一度完全に有明海に水没する。発掘調査した場所も内陸だが、ある意味海底遺跡と考えても良い。海底に没した遺跡博物館的な感じをもう少し前面に出してほしい。大がかりなものだけでなく良いが、様々な人が一度は見に行きたいと思える海底博物館、そういう雰囲気を出す展示をしてほしい。	—	情報収集を行った上で、具体的な展示方法を検討したい。

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
屋内展示	15	世界的に低湿地にあるとか、水に沈んだ遺跡はあって、そういった中でも、東名遺跡はものすごいのだということが分かるような展示をしてほしい。世界的な遺跡の情報も加えてほしいし、そういった調査もしていただきたい。	—	情報収集を行った上で、具体的な展示方法を検討したい。
	16	糞石を展示されるということで、非常に良いと思う。展示しているところはほとんど無い。8000年前のうんこに出会える、そういうことも集客につながればと思う。	—	トイレへの通路付近に、糞石の展示を計画している。【資料3-1】参照。
史跡地	17	遺跡まで導くには、もう少し何か仕掛けが必要ではないか。若い人をターゲットにするとしたら、映えるような展示物を置いて、興味を持ってそこに見に行くような仕掛けが必要だろう。	資料2に「なりきり縄文人写真撮影」（縄文人の装束で映え写真）と記載している。東名縄文館で様々な縄文グッズや衣装を借りて、現地で映える写真を撮っていただくといったことも考えている。	今後、ワーキンググループやワークショップ等を開催する中で様々な意見を伺いながら、具体的に検討していきたい。
	18	調整池の中へレンタサイクルで行くというのは、安全面から難しいのか。	資料5にシェアサイクリングなどの活用検討ということで写真を掲載しているが、周辺の文化財まで自転車で行く方がどれだけいるのか分からないが、隣接する調整池へ行くのにレンタサイクルなどが使えないか検討している。	
	19	施設から現地まではかなり距離があるので、自転車もあるし、セグウェイであったり、最近観光地でトックトックを導入する事例などもある。何らかそういう移動手段をつくるというのは念頭に入れておいた方がよい。		
	20	キャンプ全般でやりそうなことを国土交通省と協議をして、少しでもここに楽しみの要素を持つてくることは、今のうちから盛り込んでいければと思う。	—	今後開催を予定している体験イベントに盛り込むなどして、段階的に国土交通省との協議を進めたい。
	21	出土品である貝殻を一定の選別基準に基づいて分類し、現地で消耗していくという考え方の整理と、文化庁との情報の共有など、合意形成をしておいた方がよい。	—	出土貝殻の取扱いを整理し、文化庁等との合意形成を図りたい。

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
運営	22	活用の分野について委託管理する形になるのかなど、このスケジュールの中には、運営体制についてどのように進めていくのか記載されていない。	今のところ一部委託で実施していくような、直営と委託が混在するイメージで考えている。	運営方法及び体制については、サポートスタッフの育成等も踏まえ、今後、ワーキンググループやワークショップ等を開催する中で様々な意見を伺いながら、具体的に検討していきたい。
	23	東名遺跡を守る住民等も巻き込むような組織化を考えるとすれば、どのように進めていくのかをスケジュールの中に入れていった方が良い。	ワーキンググループや体験イベントを、地域の方々と一緒になって開催することで、今後の運営を含めて協力してもらえる方を発掘している。具体的な運営方法については、これからワーキンググループの方々にも意見を伺いながら、検討していきたいと考えている。	
	24	運営体制や組織などについて、こういう方向性で考えているというプランを一度示していただければ、それだったらこういう部屋が必要だとか、トイレはこれだけ必要だという議論ができる。建設した後に慌てて人を押し込もうとしても無理だろう。	—	